GONSAI

OTSUJI

INKEN

2027 大河ドラマ 幕末の志士

# 安積艮斎展

季語創唱俳人

# 大須賀乙字と夕鷂軒

**会　場**　安積艮斎記念館　郡山市清水台 1-6-23（安積国造神社内）

**会　期**　6 月 1 日（月）～ 7 月 31 日（金）9:30～16:30（会期中無休）

**企画展入館料**　500 円（社務所で受付）

## 講演会　要申込み

「江戸漢詩文は明治文学の母胎だった－艮斎、鷂軒、乙字」
「季語創唱俳人大須賀乙字伝」
6 月 7 日（日）17:30～18:30
［講　師］ 安藤智重 氏（安積国造神社　宮司）
　　緑川 健 氏（小泉屋文庫主宰）
「会　場］ 安積国造神社会館 3 階　［会　費］ 500 円
［参加申込］ 安積国造神社（郡山市清水台 1-6-23）
　　TEL 024-932-1145（9:00～17:00）

## ギャラリートーク　申込み不要

6 月　7 日（日）　14:00 ～ 14:30
6 月 28 日（日）　14:00 ～ 14:30
［講　師］ 安藤智重 氏（安積国造神社　宮司）
　　緑川 健 氏（小泉屋文庫主宰）
「会　場］ 安積艮斎記念館内（安積国造神社会館 4 階）
［企画展入館料］ 500 円

主催　安積歴史塾　　後援　郡山市　郡山市教育委員会　郡山文化協会　艮斎先生に学ぶ会
協力　安積国造神社　小泉屋文庫　波立寺（いわき）　安藤智重　小林覚（書家）
　　藤城光（ポスター制作・デザイン）カストリ書房（図録制作サポート）　緑川健　　福島県政 150 年記念事業

ふくしま 150th

季語創唱俳人

# 大須賀乙字と父筠軒

## 2027大河ドラマ登場の安積艮斎展

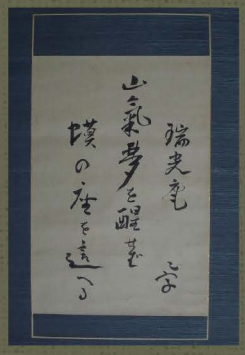
大須賀乙字（おつじ）は明治14（1881）年、いわきの漢学者大須賀筠軒（いんけん）とうめの次男として生まれる。名は績（いさお）、少年時代をいわき市平（現いわき駅前タクシープール付近）で約13年間過ごし、父筠軒（安積艮斎から教えを受ける）が旧制安積中学校で教鞭をとった関係により同中学校で学ぶ。のちに仙台二高を経て東京帝国大学文学部国文科卒業。17歳の頃から俳句を始めたという。大学在学中から俳人河東碧梧桐（かわひがしへきごとう）や高浜虚子と交流を持った。東大を卒業した乙字は文士として活躍した。さらに、麹町高等女学校の教諭になり、同時に曹洞宗大学（現・駒沢大学）、東京音楽学校（現・東京藝術大学）の講師を兼任した、大正5（1916）年8月同音楽学校教授に就任。修身・国語等を担当した。今回は乙字が歌曲に作詞した史料を展示。

また乙字は俳論家・俳人として活動し、明治41（1908）年句誌『アカネ』を創刊。同年頃から俳句の中に詠者の季感が入っている言葉を「季語」と呼んだ。これにより「季語」という言葉は、乙字が使い始めたという。彼は数多くの俳句や俳論を残し、俳句界に多大な影響を及ぼした。しかし大正8年秋、世界的に流行していたスペイン風邪による肺炎を患い、高熱を得て翌年の大正9（1920）年1月に38歳（数え40歳）で夭折した。墓所は東京豊島区雑司ヶ谷霊園にある。没後、乙字が詠んだ俳句を関係者がまとめた『乙字句集（大正10年5月）』、『乙字俳句集（昭和8年6月）』を出版。また、乙字が生前の俳論を集めた『乙字俳論集（大正10年11月）』や『俳句作法附乙字句抄（昭和9年2月）』等、数多くの乙字の著作本が刊行された。

いわき・郡山ゆかりの俳論家・俳人として大須賀乙字をあらためて見つめ直し、彼の俳句にほんの少しであるが、触れてみてほしい。そして乙字の父筠軒が学んだ安積艮斎がいよいよ2027大河ドラマ「逆賊の幕臣」に登場する。そのプレイベントとしても位置づけたい。

大須賀乙字（1881 ～ 1920）

山氣夢を醒せば　蟆の座を這へる　乙字（大正三年）



遠く夕立つて來る　森音を聞きゐたり　乙字（大正四年夏）

大須賀家の人々（明治末期）
＝前列左２人目が筠軒＝
『大須賀筠軒詩碑建立会』より

乙字が東京音楽学校講師在任中、
歌曲に作歌した楽譜群

乙字の墓
（東京・雑司ヶ谷霊園）